教科目標

言語聴覚士科２年制

１．養成目的

障害を抱える「人」及びその家族に寄り添い、支えられる人材として、自律協働し、現場でキーパーソンとして活躍できる言語聴覚士を養成する。

２．教育目標

実践的・専門的な学習を通して、現場で求められる知識・技術・社会性・適応力を修得（学んで身につける）し、国家試験に合格する。

３．カリキュラム

教育内容		科目	総時間数 （総単位数）
モチベーションプログラム	基礎分野	導入教育 ／ プロ養成講座	－
ミッションプログラム	専門基礎分野	医学総論 ／ 解剖学 ／ 病理学 ／ 生理学 ／ 解剖生理学 ／ 内科学 ／ 小児科学 ／ 精神医学ⅠⅡ ／ リハビリテーション医学 ／ 耳鼻咽喉科学 ／ 臨床神経学 ／ 形成外科学 ／ 臨床歯科医学・口腔外科学ⅠⅡ ／ 呼吸発声発語系の構造・機能・病態ⅠⅡ ／ 聴覚系の構造・機能・病態ⅠⅡ ／ 神経系の構造・機能・病態ⅠⅡ 臨床心理学 ／ 生涯発達心理学ⅠⅡ ／ 学習・認知心理学 ／ 心理測定法ⅠⅡ ／ 言語学ⅠⅡ ／ 音声学 ／ 音響学ⅠⅡ ／ 聴覚心理学ⅠⅡ ／ 言語発達学ⅠⅡ ／ 社会保障制度・関係法規ⅠⅡ ／ リハビリテーション概論	８４０ （５６）
プロフェッショナルプログラム	専門分野	言語聴覚障害概論ⅠⅡ ／ 言語聴覚障害診断学ⅠⅡ ／ 失語症ⅠⅡⅢ ／ 失語症演習 ／ 高次脳機能障害学ⅠⅡ ／ 言語発達障害学ⅠⅡⅢ ／ 言語発達障害演習 ／ 音声障害ⅠⅡ ／ 機能性器質性講音障害ⅠⅡⅢ /運動障害性構音障害ⅠⅡⅢ ／ 運動障害性構音障害演習 /嚥下障害ⅠⅡ ／ 吃音ⅠⅡ ／ 小児聴覚障害ⅠⅡ ／ 成人聴覚障害ⅠⅡ ／ 聴力検査法ⅠⅡ/ 補聴器・人工内耳ⅠⅡ /臨床実習ⅠⅡ	１４２５ （７５）
合計			２２６５ （１３１）

４．学年（学期）目標

学年	到　達　目　標
１年 （前期）	言語聴覚士に求められる適性を理解し、主体的な学習習慣により臨床現場で求められる基礎医学および専門科目を修得する。ＯＳＣＥ（客観的臨床能力試験）を通じ、知識・技能・医療人としての態度を養う。
１年 （後期）	評価実習を通して、臨床現場で求められる検査方法・評価に関する報告書類の作成ができるようになる。また、「協働の学び」でのプレゼンテーションを通じチーム医療への理解を深める。
２年 （前期）	臨床実習を通して、臨床現場で求められる検査・評価方法、訓練プログラム立案と実施、再評価等、一連の報告書類の作成ができるようになる。
２年 （後期）	国家試験合格に向け各自が弱点を把握し、合格力をつけるための対策を実施する。実習後授業、国家試験対策を通じて、臨床家として求められる臨床的思考能力と臨床技能を修得する。

５．取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
言語聴覚士	必修	厚生労働省	養成施設卒業（卒業見込）、 国家試験受験

６．就職分野

就　職　分　野	職　　種	核　能　力
病院（リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、小児科、形成外科、脳外科など）	言語聴覚士	評価・訓練能力
介護（老人保健施設、デイケア施設など）	言語聴覚士	評価・訓練能力
福祉（障害者福祉センター、小児療育センター、難聴幼児通園施設など）	言語聴覚士	評価・訓練能力
学校（通級指導教室、特別支援学校、聴覚障害、知的障害、肢体不自由など）	言語聴覚士	評価・訓練能力
企業（補聴器・嚥下食など）	言語聴覚士	評価・訓練能力